

作文コンクール「Leading to the Future 未来に向かって～教師・夢・感動～」

2017年 優秀賞作品「現在の自分、未来の自分」

大阪府立北野高等学校 2年 竹下夏鈴さん

何がしたいのだろうか。高校進学を控え、自分の進路を真剣に考えるようになった頃、私は自分の未来についてうまく想像することが出来なかった。時間だけが過ぎて自分のやりたいことやなりたいものが見つからない。友達は次々と志望校を決めていき、焦りだけが募る。

そんな時にテレビである特集を見た。『子供の貧困』その内容に私は衝撃を受けた。ナレーションの声と共に流れる、知っているようで知らなかった日本の現状。食すらままならない子、怪我をしても病院に行かせてもらえない子、お風呂に入れない子。発展途上国で貧困や飢餓に困る子供たちがいることは知っていて募金や寄附に参加したことはあったけど日本にも生活に困窮するほどの子供たちがいるとは思わなかった。リアルな現実に愕然とした。私は番組が終わってすぐさま図書館へ向かった。本とインターネットで子供の貧困を調べていく内にある思いが芽生えた。

「教師になりたい。教師になって学ぶ大切さを教えたい。」

昨今の日本では、高校・大学に進学することが当たり前になりつつある。貧困であるが故に十分な教育を受けられないと将来の道が狭まり、これが貧困の連鎖を生むという。つまり学びこそが連鎖を断ち切る唯一の手段であり、それを最も近い場所で手助けできるのが教師だ。また、身近な大人にゆっくりと話を聞いてもらえない子供たちが信頼できる教師を見つけ、関係をつくることで自己肯定感やコミュニケーション能力など社会で生きていくのに必要な力を育むチャンスとなりうる。実際、私自身も母子家庭に生まれ母は毎日夜遅くまで働いていたから自分の悩みを相談できる人がいなかった。自暴自棄になっていた私を救ってくれたのが学校の先生だった。まっすぐ私と向き合ってくださってたくさん励ましの言葉を頂いた。勉強することの楽しさを教えて下さった。

私はいま、自分の未来が楽しみだ。高校の勉強は難しいけれど学び続けたいと思う。そしていつか自分が学ぶ楽しさを教えられる、生徒と真正面から向き合える教師になりたい。だからそのために現在を一生懸命頑張りたい。